

山北今帰仁監守来歴碑記
(1749)

企画展紹介

刻まれた歴史——沖縄の石碑と拓本展

沖縄の歴史の一コマを物語る石碑は町のなかに、あるいは路傍に、さりげなく立ち、私たちに何かを語りかけているようです。

戦前、沖縄には歴史・文化的な事柄を刻んだ多くの石碑がありました。それは歴史的にも古い貴重な記録でした。しかし、その多くが戦災により失われました。

今回の展示会では、亡失した石碑はもとより、現存する石碑について拓本でわかりやすく紹介します。また、戦災をうけているものの当館に保

管され残存する石碑資料を実際に展示します。実物は戦後このかたほとんど公開されたことはまれで、その素材や碑文、文様などをじかにみることは少なかったといえます。拓本は沖縄諸島から宮古・八重山諸島、さらには那覇市教育委員会の協力を得て、王国時代に関わりの深かった鹿児島ほか県外の資料を展示します。展示資料は約60点です。なお、現地に残る実物の石碑は写真パネルで紹介します。

特別展

「沖縄の川と生きもの」の開催

1993年8月3日(火)～9月5日(日)

この展示会は当博物館及び博物館友の会が主催し、沖縄タイムス社との共催、沖縄総合事務局及び河川環境管理財団の後援のもとに開催されました。

展示構成は、自然室の「沖縄の川と生きもの」、企画展示室で「川の生きもの生活史」、美術工芸室の「川と人のかかわり」の三つの展示コーナーに分けた展示を行いました。その内容は「沖縄の川と生きもの」の中で川のなり立ち、河口・マングローブの生きもの、湿地や沼地の生きもの、中流（滝の下）の生きもの、滝周辺の生きもの、沖縄の川の特徴、中流（滝の上）の生きもの、山地部上流の生きもの、源流の生きものと各環境ごとに展示配列しました。

「川の生きもの生活史」のコーナーでは魚類、甲殻類、水生昆虫類、両生類等の川の生きもの生活史を紹介し、河川生物の川と海のかかわりやその生活史に与える人の影響として、ダム開発や河川改修、赤土汚染、河口閉塞、移入動物等の生きもの生活にいかにか人間の影響が生じているかを展示紹介しました。

「川と人のかかわり」では河川整備の歴史や川と人間生活との関わりの中で、河川水を使った作物栽培、生活水としてのダム河川の利用、河川生物の捕獲器(アニク)、川の汚れと生きもの分布、

河川の調査、河川生物や河川復元の取り組み、新たな水辺空間の創出、河川の保護等多岐にわたる川と人に関わる歴史や民俗的な関わり及び現在の河川環境の現状について理解を深め、その保護についても関心を持つことができるよう展示配列しました。

これら以外に1階正面入口（ロビー）にはリュウキュウアユとヒルギをメイン展示にし、また滝を再現しました。2階スロープに沖縄の川の顔、企画展示室での水生昆虫や魚類等の水槽飼育展示等を関連展示として構成しました。

また、関連する行事として、8月21日に特別文化講座が開催され、愛媛大学教授の水野信彦氏による「生きものにやさしい川づくり」と題した講演が行われました。さらに、8月22日に現地研修として「沖縄北部の河川めぐり」が開催され、親子20組の参加がありました。

今回の特別展をとおして、県民各層に対し河川環境に興味と関心をいだかせ、的確な河川環境の現状認識の促進に役立てることが出来ました。そして、このことは河川環境の保護意識の啓蒙と高揚を図る絶好の機会となり、かつ環境問題が地球規模で叫ばれる今日では、環境保護を考える上で意義深いことでもありました。



子ども体験学習教室スタート!!

第一回講座

「野鳥は友だち」

講師：玉城 常雄（開邦高等学校教諭）

5月6日(土)・6月12日(土)

■山田 清香（小学生）■

「チッチッチッチ…とさえずる鳥たちの下で、私は暑さにまげず、頑張って歩いて行きました。今日は、ヒヨドリとメジロとウグイスの泣き声と姿を見て、聞き分けることができたので、とてもうれしかったです。望遠鏡で見た鳥の姿は、いつも見てると少し違ったように見えたので、本当に楽しかった」



第二回講座

「オリジナルの印を作ろう」

講師：大城 民子（雲石書道同好会）

7月10日(土)・8月14日(土)・9月11日(土)

■三つ子の兄弟がんばる!■

石を切る、字体を見つける、白文にするか朱文にするかデザインを考え、印材に字を逆に書き、印材を彫る。このような印づくりも、試してみるとなかなか楽しい。堅いと思っていた石もいざ切ってみると柔らかくてビックリ…メガネの三つ子の兄弟、粟国安弘君、有正君、信人君も真剣でした。



まだまだ続く

「子ども体験学習教室

あなたも参加しませんか？

「遊びの道具づくり」

日時：平成5年10月8日(金)

〃 11月13日(土)

〃 12月11日(土)

講師：外原 淳（沖縄玩具伝承友の会）

「史跡をたずねて」

日時：平成6年1月8日(土)

〃 2月12日(土)

〃 3月12日(土)

講師：金城 明美（平敷屋小学校教諭）

平良 信明（鏡原中学校教諭）

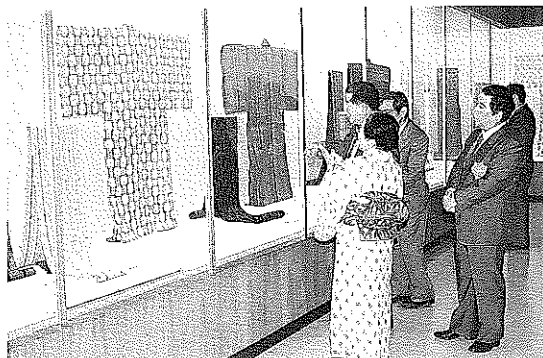
新城 俊昭（大平高等学校教諭）

受付 平成5年12月1日(休)～12月28日(火)まで

企画展

「芭蕉布と平良敏子」開催される

7月6日(火)～25日(日)まで開催された企画展「芭蕉布と平良敏子」では芭蕉布にスポットをあて、平良さんの作品50点を中心に、芭蕉布の過去と現在を紹介しました。これまでの平良さんの作品では見られなかった福木や蘇枋、茜、山桃等の植物染料を用いた色鮮やかな芭蕉布が展示の大半を占め、県内外の関心呼びました。



夏休み「歩く・見る・作る」教室開催される

子供たちにとって夏休みは、学校を離れて自主・課題学習に取り組む絶好の機会です。このような夏休みを親子で有意義に過ごし、あわせて郷土の文化や自然にふれることにより、子供たち

自らが進んで学習できる機会を提供するために、博物館では屋外における「スケッチ会」「自然観察会」「石器をつくる」を開催しました。

「スケッチ会」

日時：8月15日(日)

講師：田場 健章

(琉大付属中学校教諭)

「自然観察会」

日時：8月22日(日)

講師：安座間安史

(北山高等学校教諭)

「石器づくり」

日時：8月29日(日)

講師：上地 克哉

(県教育庁文化課)

- 「何を描こうかなあ～、私は弁財天堂にしよう」みんなうまく描けたスケッチ会。
- わあ～小さな虫がいっぱいいるよ」みんなでビックリの自然観察会。
- 「いがいとむずかしいなあ～」やっとのことで親子で協力し、作り上げた石器づくり。どの教室も、みんな楽しくおこなうことができました。各講師の先生方、どうもありがとうございました。



来年の夏は

みんなもチャレンジしてみませんか！

伊良部島

移動博物館のお知らせ!

11月20日(土)・21日(日)

沖縄県立博物館では、博物館の利用に不便を感じる地域の方々に博物館活動の一端にふれていただくため、昭和54年度から「移動博物館」を実施してまいりました。

平成5年度は第17回目にあたり、伊良部町で11月20日(土)・21日(日)の二日間、開催いたします。

会場はB&G財団伊良部海洋センター体育館を

予定しており、展示内容は沖縄の歴史、考古、自然、美術工芸、民俗の5分野にまたがり、できるだけ多くの方々が御覧になっていただけるように企画いたしております。

また、伊良部の自然に関する文化講座を、琉球大学名誉教授の池原貞雄先生を講師に迎え、20日(土)に同会場二階にて開催いたします。

新職員を紹介



副館長
濱比嘉 勝



指導主事(充)
久貝勝盛
(自然史)



指導主事
瀬名波 任
(自然史)



専門員
金城 透
(民俗)

開かれた博物館を目指して頑張りますので、
宜しく願ひいたします。

*尚、前副館長の西平守勝氏は糸満青年の家所長へ、上門清春氏は教育センターへ、大城學氏は教育庁文化課へ、それぞれ転出しました。

平成5年度博物館文化講座(下半期)のご案内

第230回『拓本教室』

①「拓本のとり方」

日時：10月16日(土) 午後2時～5時

講師：崎間 麗進(沖縄県文化財修理技術者協会副会長)

阿波根直孝(沖縄県文化財修理技術者協会会員)

運天美和子(沖縄県文化財修理技術者協会会員)

定員：20名

内容：拓本研究家による、拓本のとり方の実演と実技指導

②「拓本の表具方法」

日時：10月23日(土) 午後2時～5時

講師：当間 博(表具師)

定員：20名

内容：拓本教室で採拓したものを使って、表具する過程の実技指導

第231回『琉球王朝絵画と中国絵画』

日時：11月20日(土) 午後2時半～4時半

講師：神山 泰治(琉球大学教授)

定員：なし

内容：中国絵画の影響を強く受けた琉球王朝時代の絵画について、中国絵画との比較をとおしてその関係について紹介する。

第232回『野鳥に親しむ』

日時：12月18日(土) 午後2時半～4時半

講師：嵩原 健二(県立博物館学芸員)

定員：30名

内容：漫湖公園で野鳥を観察しながら、自然に親しむ方法を学ぶ

第233回『寄りもの話』

日時：1月22日(土) 午後2時半～4時半

講師：當眞 嗣(県立博物館教育普及課課長)

定員：なし

内容：黒潮にのり、琉球諸島の海岸に流れ着く漂着物から、文化の交流や文物の移動について考える

第234回『ホームビデオ製作』

日時：2月19日(土) 午後2時半～4時半

講師：西村 治良(NHKディレクター)

定員：親子15組 ※ビデオカメラ持参のこと

内容：家庭のビデオを使って撮影・編集のしかたを学ぶ

第235回『歴史の道を歩く』

日時：3月19日(土) 午後2時半～4時半

講師：萩尾 俊章(県立博物館学芸員)

定員：50名

場所：首里近郊

内容：首里近郊に残る歴史の道を歩く事で、歴史の追体験を行う。

博物館ボランティア活動歩きはじめる

◆9月3日博物館ボランティア会発足◆

今年7月、ボランティアの組織づくりを目標に「沖縄県立博物館ボランティア活動要項」ができ、登録の準備が整いました。

ボランティア活動の種類は、①解説を中心とする教育ボランティアと②資料収集を中心とする資料収集ボランティアの二つ。

対象は教育ボランティア養成講座修了者、友の会会員、ボランティアを希望するもの。とりわけ教育ボランティア養成講座を受講して、博物館の

活動を意欲的に学ぶ方の登録を希望しています。

7月から9月まで7回にわたって行ってきた養成講座の中から多くの登録希望者が出て閉会式のときにボランティア会の発足、世話人の選出、月1回第1火曜日2時からの勉強会などが決まりました。

9月より解説ツアーに合わせて、解説の練習を重ね、10月からの学校団体見学から暗れ舞台を踏む予定です。

博物館友の会より

ロビーの一角に売店と友の会の事務局を兼ねたコーナーにいと、来館者からたびたび尋ねられることがあります。「博物館友の会ってなんですか、誰でも入会できるのですか？」このような質問に、友の会の活動を説明したり、入会案内書を配っております。

そうすると反応は二つ。「即入会」と「少し考えてから」に分かれるのです。会員の増加は目を見はるものがあり、13年前の設立時に44人だったのが、今年度の達成目標である600人をすでに8月中で達成し、700人に向かおうとしております。

最近では「何かを知りたい」、「もっと深く知りたい」という、知識への情熱を持つ人が増えている気がします。

友の会の活動に魅力を感じ、人の輪が広がっているのでしょう。活動内容も常設展の解説会、離島や県外研修、ヤンバルの自然と文化財めぐり、首里周遊めぐりと盛り沢山です。

昨年度は熊本県伝統工芸館友の会や岩手県立博物館友の会との交流をもち、それぞれの会が抱える問題や意見の交換をすることができました。

このような機会をもっと増やしてお互いが直面している問題点等を話し合い、勉強することによってよりよい友の会ができあがるのではないかと思います。

将来、全国的な友の会組織ができれば、各地に特徴ある友の会活動が広がるのではないのでしょうか。

貴方も「友の会」に入会してみませんか

<p>博物館案内図</p> <p>バス路線</p> <p>那覇交通(銀バス)</p> <p>①石鐘線(開南)</p> <p>③牧志線(首里)</p> <p>②末吉線の「池端」又は「当蔵」停留所下車、徒歩2分</p> <p>④石川線(首里経由)</p> <p>⑤西原線(山川経由)</p> <p>「桃原」停留所下車、徒歩5分。</p>	<p>沖縄県立博物館だより No.34</p> <p>発行年月日:平成5年9月25日</p> <p>編集・発行:沖縄県立博物館</p> <p>住所:〒903 那覇市首里大中町1-1</p> <p>☎098-886-4353</p> <p>☎098-884-2243</p>
--	--